

○ウツギの園藝品の 2, 3 について (津山 尙) Takasi TUYAMA: On some horticultural varieties of *Deutzia crenata* Sieb. et Zucc.

昨年 6 月 12 日帝都電鐵三鷹臺驛から井之頭公園の裏手への途中の路傍で、花や枝葉に紅色を帯びたウツギの一株を発見した。このウツギは一重咲であつて基本型とは色彩以外の點ではあまり異つていない。本來純白である花瓣の背面に紅彩を帯びたもので、その程度は陽光の當る面で特に強い。精しく見るとその色は細かな凸凹のある花瓣の背面を紅汁を含んだ筆で軽く擦過した如くに分散した點の集合からなつている。紅彩は萼の全面に見られるが、特に緑色の薄い萼裂片の部分ではより鮮かに現われ、花梗、花序の軸、若枝の莖部、葉柄、葉身の主脈に及び、特に葉緑素を缺く葉縁及び刺状の小鋸齒の部に著しい。花の内部は花糸の下半部が淡紅色を呈する以外には純白である。この紅彩は Ridgeway の Color standards and Nomenclature 241 番 (Tyrian pink—明赤色—赤色、邦譯は興林會發行の標準色鑑による)。色彩の點以外でこの植物がウツギの基本型と異なる所は、花冠が廣く開かないことである。この植物に對して Rehder は Manual of Cultivated Trees and Shrubs で *D. scabra* Thunb. var. *Watereri* (Lemoine) Rehd. の名を與えている。小生はこれに對してアケボノウツギ *D. crenata* Sieb. et Zucc. forma *punicea* (Schneid.) Tuyama, comb. nov. [Syn. *D. scabra* forma *punicea* Schneid.] の名を與えたい。これと同じものを蘭山は次のように書いている。「又土州にては深紅色なるものありと云う」(本草綱目啓蒙)。

なおアケボノウツギと同じ花色を有し八重咲の品は本邦でも栽植しサラサウツギ *D. crenata* var. *plena* Maxim. forma *bicolor* Makino の名を有する。頼山泰一氏が鎌倉の自邸に栽植してられるものは圓覺寺附近の人家にあつたものを挿木したものの由で、アケボノウツギと同様に花被が廣く開かない特徴を有する。亙理俊次氏によればこの品は市川市八幡附近に多く、普通生垣に作つている由であり、牧野富太郎先生によれば、嘗つて麻布の某邸で立派に開花していたのを見られたという。この品は灌園の本草圖譜 (86 卷 7 丁) に「一種 樹高七八尺に至る 葉の形うつぎに同じく初夏梢に穗をなして千葉の淡紅花をひらく 形菊の如く大さ五分許なり」と書いている。

シロバナノヤエウツギ *D. c.* var. *plena* forma *alba* Makino は日光や信州に多く見られる。Kaempfer の *Amoenitatis Exoticae* Fasc. V, 855 (1712) には既にこれについて次の記録がある。「……species flore nives pleno (petalis plus minus 20) densissimo ad ex ornandas areolas non in postremis habetur ab hortulanis。」ウツギ屬は歐米では花木として重要視され、交配品種もいくつか作り出されている程である。本邦でもこれらに多少注意を拂つてもよいものと思う。